

唐丹文芸

「わちやく」詠 草

唐丹短歌会

雲を希み天かけゆきし若人の夢のつゞきをきくよしもなく
波のまに浮き沈みする浮玉に虫求めてか岩雀とぶ

川原セイ

わらび折るわが間近くに潜みいし雉が激しくひな追い立てる
採草地に草刈りをして忘れたる去年の鎌が錆びて出て来ぬ

大津秀子

幾世代風雨に耐えて佐須の杉近く古木に定めらるとふ
五百年峠の杉は生きて来し陽さしゆたけき海風吸ひて

環あき

夕暮れのあるやなしやの頬なずる風に藻汐の匂い親しも
曖昧が嫌といつも口癖の友みまかりしをひしと思う日ひ

上野ウタ子

分骨を胸に抱きて念願の亡母の墓所へと今日二人旅
故郷よ空よ小川よ野に満つる花乱れ咲き納骨終わりぬ
さよならと別れの言葉ききし如淋しさ抱きて帰る一人旅

須貝美佐子

離れ住む姉の病を見舞わぬに訃報届きて心残れる
どれ程に恋しかりしか故郷へ姉の遺影は子に抱かれ来ぬ

板乗ときわ

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-5174番(盛岩寺)